

第 85 回 原子力安全専門委員会定例会（議事概要）

日 時：令和 8 年 1 月 8 日（木） 13:30～15:30

場 所：福井県庁 10 階 総合防災センター + Web

出席委員：

（現地） 泉委員、片岡委員、西本委員、

（Web） 鞍谷委員長、大堀委員、黒崎委員、近藤委員、望月委員、
山本(章)委員、釜江委員

議 題：

- （1） 原子力発電所周辺の環境放射能調査について
 - ・ 令和 7 年度 第 2 四半期（7 月～9 月）報告
- （2） 原子力発電所の運転・建設および廃止措置状況
 - ・ 令和 7 年 9 月～1 1 月分報告

概 要：

- 原子力発電所周辺の環境放射能調査の結果、発電所の運転および廃止措置状況について、事務局より説明
- 資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配布予定

（原子力発電所周辺の環境放射能調査）

令和 7 年度 第 2 四半期

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定の結果、いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 一部の試料から過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルではなかった。
- ・ 一部の試料から県内原子力発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全上問題となるレベルではなかった。

（発電所の運転および廃止措置状況） 令和 7 年 9 月～令和 8 年 1 月

- ・ 今期間の運転状況は、現在、敦賀 2 号機を除く県内発電所 7 基[※]が運転している。
- ・ 当該期間において、安全協定に基づき報告された異常事象は 1 件であった。（ふげん ホットカラム室内での水（トリチウムを含む）の漏えい）

※ 美浜発電所 3 号機、大飯発電所 3、4 号機、高浜発電所 1、2、3、4 号機

(主な質疑)

- Q. アメリカの地下室などではラドンによる放射線の上昇があると聞いたことがある。日本でも地下シェルターなどを作るとラドンの影響を受けるのか。
- A. 監視センターとして具体的な数値を確認したわけではないが、文献等ではコンクリートが線源になると書かれていて、バックグラウンドの測定でもコンクリートの建物は屋外より線量が高いということもある。そういう意味ではコンクリートのシェルターを作ればそちらの寄与の方が大きいのではないか。
- C. ヨーロッパでは炭鉱労働者がかなりの被ばくをするということで問題になっている。日本でも、炭鉱はほとんどないが実測すると換気が悪いためかなりの線量になる。一般の地下街や地下室では、ラドンからポロニウムになって、ポロニウムの半減期がたった3.1分であるが、ラドンが希ガスなので、排気してしまえば線量は大きく下がる。
- Q. 原因対策がまとめられた余剰抽出水クーラ出口安全弁から格納容器散歩への流入の件について、これまで閉じて運用していた出口弁を開運用にする影響はないのか。
- A. 事故時に格納容器を隔離する機能を持っているのがこの出口弁のため、これまで出口弁を閉運用としていたが、この出口弁は空気作動弁で遠隔で閉操作ができるものであり、格納容器の隔離機能にも系統の圧力にも影響を与えないことを確認したうえでこの対策としている。

以 上